

前島密翁のお墓詣でと 海洋研究開発機構見学

千葉県大網白里町 藤沢勝一郎（東本町四丁目出身）

平成十八年五月二十日土、横須賀市の浄楽寺にある郷土の偉人前島密翁のお墓に詣でた後、独立行政法人海洋研究開発機構の見学をしました。

当日、家を出る時は天気雨、集合場所のJ.R逗子駅に着いた時は曇り空、午後にはすっかり晴れ上がっていました。

勉強会参加者五人は、駅前からバスで浄楽寺へ。翁は、上越市（旧下池部村）出身でわが国郵便制度の父として知られていますが、そのお墓がこの寺にあることはあまり知られていませんし、まして上越市民がお墓を詣でることなどほとんど無く、Jネット会員も今回が初めてです。寺の入り口には「郵便制度創始者 前島密翁の墓所」の石柱があり、石製矢印も数箇所にあるので迷うことなく墓所へ行くことが出来ます。

私達は、墓前に線香を手向け合掌。スベースヤトルのような墓のデザインは、本人によるものとのこと。墓近くの業績を記した石製説明板には「……一八三五年一月七日に生まれ、……郵便事業の創始者として広く知られていますが、郵便事業にとどまらず、郵便為替、郵便貯金の創業など、今日の郵政三事業の基礎を確立したばかりでなく、東京専門学校（現早稲田大学）や訓盲院（現筑波大学付属盲学校）の創設に関与するなど……その他にも鉄道、陸運、海運……新聞事業の推進など幅広い分野で日本文明の発展に多大な功績を残し、その先見性や積極果敢な行動力には大変すばらしいものがありました。また、趣味は尺八、俳句、漢詩、書、築庭などで他の人の追従を許さぬ域に達していました。……余生を当地で

過し一九一九年（筆者注四月二十七日）

八十五歳で死去され……」とあり、翁の業績に改めて感銘を受け、同時に、民営化後も翁の所期の目的が、曲げられることのないよう願って止まないところです。

翁は、この寺の一角に「如々山荘」を建て、晩年を夫人とともにゆつたりと過ごし、自叙伝を書かれたとのことでした。

またこの寺には、運慶作といわれている国指定有形文化財 阿弥陀三尊像があり「横須賀風物百選」にも選ばれていますが、寺の担当者が留守で拝観は出来ませんでした。

午後から見学した同市内の海洋研究開発機構は、特殊法人等で海洋科学技術センターと称されていましたが、東京大学海洋研究所との国立研究機関統合後、現在のように改称されました。この機構は海洋を中心とした地球環境変動・深海微生物・海洋資源等の研究開発、技術開発を総合的に実施しているわが国唯一、世界有数の研究所です。

この日は研究所の一般公開日で、子供連れのお父さんお母さんも大勢来ていました。

最初の見学は、深海のものすごい圧力



です。直径一メートル、厚さ四センチメートル、重さ一トンの高張力鋼製の球が一つ、六〇〇メートル水深の圧力（二、一六〇気圧）で破裂しているものでした。深海探査では、この水圧に耐えられる潜水船等構造物が必要になるのが実感できました。ちなみに世界最水深はマリアナ海溝チャレンジャー海淵の一〇、九二〇メートルです。ここでもらったお土産は六、五〇〇メートル水深（六五〇気圧）で十分の一の容量



程度にまで縮んでしまったカッブスードル容器です。

アルコール原液を入れたら溶解変形の恐れはあるが、ウイスキー程度のもなら何とも無いとのことでしたので、翌日さっそく家で実験し変形無しを確かめました。

このほか魚、えび、海底土の中の微生物等を採取した所の深海高圧力を保持したまま、実験室内で生息させ観測、研究できる施設。また、海水温の変化や分布範囲が気象環境に影響し、台風・豪雨・早魃などの気象異常、災害などを起こす地球環境に影響することをスーパーコンピュータで解析・予測していることがパネル展示されていました。

この日は、直江津港沖三十キロメートル、水深九〇メートルでメタンハイドレード（燃える氷＝固体状メタン）を採取した海洋調査船「かいよう」（三、三八五トン、長さ六十二メートル）の見学が出来ました。船上から見渡せば青い空、眩しいほど陽をキラキラ反射している海、半島の山の緑が目にしみます。

この調査船は、平衡安定性を保つため足が二本あるような双胴船で、船尾の双腕クレーンで有人潜水船、無人潜水船、調

査観測装置の着水や甲板への引き上げ作業を行います。甲板は、作業しやすいように広く取ってありますが、船内の階段は客船よりも狭く急勾配、廊下も狭くあちこちに凸状の仕切りがあつて歩きにくい。科学調査するこの船の操舵室にも、客船と同じように、航海の安全を願つての金比羅さんの神棚がありました。

直江津港沖メタンハイドレードについては、まず海底電気探査により地質・堆積物を調査解析してメタンハイドレードの存在を知り、次に海底まで届くワイヤの先に装着した採取器を船上から操作して採取したとのことでした。実物があれば触ったり、燃やしてみることも出来たのですが、採取したメタンハイドレードはもう保存されていませんでした。

本日の勉強会はこれで終わり、研究所からバスで追浜駅へ。駅前の居酒屋で、ジョッキを傾けながらの反省会はいつもどおりでした。

☆浄楽寺へは、JR逗子駅前の京急バス二番乗り場から三十分程、「浄楽寺」下車歩一分。

☆海洋研究開発機構へは、京急追浜駅前から京急バス「海洋研究開発機構」行きで七分程。

